

木村 誠教授 略年譜及び業績目録

【略年譜】

- 一九五〇年二月一六日 東京都墨田区向島中ノ郷町に生まれる
- 一九五六年四月 一日 東京都墨田区立小梅小学校入学
- 一九六二年四月 一日 東京都墨田区立墨田中学校入学
- 一九六五年四月 一日 東京都立両国高等学校入学
- 一九六八年三月一七日 同卒業
- 一九六八年四月 一日 東京都立大学人文学部入学
- 一九七二年三月二五日 同人文科学科卒業
- 一九七二年四月 一日 東京都立大学大学院人文科学研究科史学専攻修士課程入学
- 一九七四年三月二五日 同修了
- 一九七四年四月 一日 東京都立大学大学院人文科学研究科史学専攻博士課程入学
- 一九七五年六月三〇日 同退学
- 一九七五年七月 一日 東京都立大学人文学部助手採用
- 一九八五年四月 一日 同助教教授昇任
- 一九九九年四月 一日 同教授昇任
- 二〇〇五年四月 一日 首都大学東京都市教養学部教授

二〇一五年三月三十一日 同定年退職

【業績目録】

《著書》

（単著）

二〇〇四年 『古代朝鮮の国家と社会』（吉川弘文館）

（共著）

一九七四年 『朝鮮の歴史』（朝鮮史研究会編、三省堂）

一九九五年 『朝鮮の歴史（新版）』（朝鮮史研究会編、三省堂）

一九九五年 『朝鮮人物事典』（木村誠・趙景達・吉田光男・馬淵貞利編、大和書房）

《論文》

一九七六年 一月 「六世紀新羅における骨品制の成立」『歴史学研究』四二八号）

一九七六年 三月 「新羅郡県制の確立過程と村主制」『朝鮮史研究会論文集』一三集）

一九七六年 一月 「新羅の祿邑制と村落構造」『世界史の新局面と歴史像の再検討——一九七六年度歴史学研究会大会報告——』、歴史学研究別冊特集、青木書店）

一九七七年 二月 「新羅の宰相制度」（東京都立大学人文学部紀要『人文学報』一一八号）

一九七八年 三月 「新羅上大等の成立過程——「上臣」史料の検討——」（末松保和博士古稀記念会編『古代東アジア史論集』上巻、吉川弘文館）

一九七九年 三月 「統一新羅の郡県制と浪江地方経営」（旗田巍先生古稀記念会編『朝鮮歴史論集』上巻、龍溪書舎）

- 一九八二年 九月 「統一新羅の官僚制」(『東アジア世界における日本古代史講座』六卷、学生社)
- 一九八三年 九月 「統一新羅の王幾について」(『東洋史研究』四二卷二号)
- 一九八三年 一月 「新羅時代の郷部曲制成立史の再検討」(『歴史評論』四〇三号)
- 一九八四年 三月 「三国期新羅の王幾と六部」(『東京都立大学人文学部紀要』『人文学報』一六七号)
- 一九八六年 三月 「統一新羅の骨品制―新羅華嚴經写経跋文の研究―」(『東京都立大学人文学部紀要』『人文学報』一八五号)
- 一九八八年 三月 「朝鮮古代における国家と民族の形成」(『朝鮮史研究会論文集』二五集)
- 一九九〇年 九月 「高麗前期의 田柴科制度와 小作制을 둘러싼 二・三의 문제―浜中昇씨의 所說에 對하여―」(『碧史李佑成教授停年退職紀年論叢』『民族史의 展開와 文化』上巻、一潮閣、ソウル)
- 一九九二年 五月 「朝鮮における古代国家の形成」(『新版古代の日本』② アジアからみた古代日本、角川書店、)
- 一九九二年 七月 「新羅国家生成期の外交」(『アジアのなかの日本史Ⅱ 外交と戦争』、東京大学出版会)
- 一九九七年 三月 「朝鮮古代の土地制度をめぐる二・三の問題」(『アジアの地割制度』、科学研究費補助金(基盤研究A・2)研究成果報告書・研究代表者…佐竹靖彦)
- 一九九七年 四月 「中原高句麗碑立碑年次の再検討」(『武田幸男編『朝鮮社会の史的展開と東アジア』、山川出版社)
- 一九九八年 七月 「倭人の登場と東アジア」(『平野邦雄編『古代を考える 邪馬台国』、吉川弘文館)
- 二〇〇〇年 三月 「百濟史料としての七支刀銘文」(『東京都立大学人文学部紀要』『人文学報』三〇六号)
- 二〇〇〇年 二月 「中原高句麗碑의 立碑年에 관하여」(『高句麗研究』一〇輯、高句麗研究会、ソウル)
- 二〇〇三年 一月 「朝鮮古代史における国際的契機―新羅・毗曇の乱の再評価―」(『歴史学研究』七八二号)
- 二〇〇五年 一月 「朝鮮三国と倭」(『武田幸男編『古代を考える 日本と朝鮮』、吉川弘文館)
- 二〇〇六年 三月 「統一期新羅村落支配の諸相」(『東京都立大学人文学部紀要』『人文学報』三六八号)

二〇〇七年 八月 「삼국유사에 보이는 왜와 일본에 대하여」(一然学会編『일연과 삼국유사』, 圖書出版社新書苑, ソウル)

二〇〇九年 五月 「統一新羅의 王室과 内省」(石門李基東教授停年紀念論叢刊行委員會編『石門李基東教授停年紀念論叢 한국고대사연구의 현단계』, 도서출판주류성, ソウル)

二〇一〇年 六月 「朝鮮三國の興亡」(『日本の対外関係1 東アジア世界の成立』吉川弘文館)

二〇一二年 八月 「『三國遺事』板本研究について」(『국제학술포럼 삼국유사 그리고 신화적 상상력과 예술』, 문화재청・재단법인 국립극단, ソウル)

《その他》

一九七三年 三月 「『朝鮮の学者を囲む學術座談会』について」(『朝鮮史研究会論文集』一〇集)

一九七五年 七月 「新羅史研究の現状と課題」(『歴史学研究』四二二号)

一九七六年 五月 「一九七五年の歴史学界…回顧と展望—朝鮮1」(『史学雑誌』八五編五号)

一九七九年 五月 「一九七八年の歴史学界…回顧と展望—朝鮮1」(『史学雑誌』八八編五号)

一九八一年 六月 「朝鮮前近代の時代区分」(朝鮮史研究会編『新朝鮮史入門』, 龍溪書舍)

一九八二年 五月 「一九八一年の歴史学界…回顧と展望—朝鮮1」(『史学雑誌』九一編五号)

一九八六年 三月 「書評 武田幸男著「中古新羅の軍事的基盤—法幢軍団とその展開」(『法制史研究』三五号)

一九八八年 五月 「一九八七年の歴史学界…回顧と展望—朝鮮1」(『史学雑誌』九七編五号)

一九九一年 二月 「書評 武田幸男著『高句麗史と東アジア—広開土王碑—研究序説—』(『史学雑誌』一〇〇編二号)

一九九三年 八月 「朝鮮古代の山城と都市をたずねて」(『談話会会報』四号, 東京都立大学歴史学研究室談話会)

一九九四年三月〜二〇〇二年三月 新羅史研究会(文責・木村誠)「『三國遺事』訳注」一〜九(『朝鮮文化研究』一〜九号、

東京大学文学部朝鮮文化研究室)

一九九五年 八月 「座談会…古代朝鮮と東アジア—古代朝鮮関係史研究の問題点」(『東アジアの古代文化』八四号)

二〇〇二年一月 「古代の日朝関係はいまどこまでわかっているか」(『歴史地理教育』六四六号)

二〇〇七年 三月 新羅史研究会(文責・木村誠)『三国遺事』訳注 一〇『韓国朝鮮文化研究』一〇号、東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究室)

二〇一〇年一月 「書評 武田幸男著『広開土王碑墨本の研究』」(『日本歴史』七五〇号)

二〇一四年一〇月 「朝鮮古代国家形成史の研究をふりかえって」(『朝鮮史研究会論文集』五二集)